

History of Riko Morita

念願の夢をかなえ、競艇選手として新たな目標への一歩を踏み出した梨湖選手。ここで、彼女の「人生のターニングポイント」を振り返ります。

1999年11月30日

今垣光太郎選手(石川)が6号艇でSGを制覇した年に生まれた梨湖選手。競艇選手を目指し、5歳で「空友会」へ入門。



「競艇選手に必要な体力と精神力を養うため空手を始める。」

2014年

空手家としても才能を開花させ、黒帯二段の腕前を持つ梨湖選手。スカウトされた福岡工業大学付属城東高校へ進学。



「高3最後の夏は、強豪選手を下し九州大会へ出場した。」

2019年

4度目の挑戦で志願者798人の中から難関を突破し「ボートレーサー養成所」に合格。入学者52人のうち女性は20人。



「現役ボートレーサーの父昭彦選手と入学式に記念撮影。」

2020年11月8日

養成所を卒業し、デビューを果たした梨湖選手。プロ初戦は、芦屋競艇場(芦屋町)で開催された「BTS宮崎オープン6周年」。



「好スタートが印象に残る初戦。結果は「価値ある6戦」。

to be continued...

森田梨湖

「福岡支部所属ボートレーサー」



若松競艇場(北九州市)で12月12日から開催されたプロとして2大会目の「ギラヴァンツ北九州杯」。第2マークを「モンキーターン」で旋回する森田梨湖選手。

出来ると信じて!!



● 森田梨湖(もりた・りこ)

平成11年11月30日、福智町赤池生まれの21歳。市場小・赤池中学校卒業後、福岡工業大学付属城東高等学校へ進学。その後、ボートレーサー養成所に入校し、21歳でプロデビュー。身長154センチ、体重46キロ、B2級に所属。登録番号は【5164】

父の背中受け継いで 目指した競艇の世界

日本競艇界最高峰の舞台「G1」への出場経験をもち、福岡支部長も務めた現役ボートレーサーの父・森田昭彦選手(あきひこ)の娘として生まれた森田梨湖選手。父の活躍を幼い頃から見続けていた梨湖選手は、「気付いたころには、レーサーになりたいと感じていた」と物心つく前から将来の



↑平成8年にプロデビューした父・森田昭彦選手。レーサー歴25年の大ベテラン。平成14年ごろにはA級選手として「G1」にも出場。

目標にしていたと語ります。

ボートレーサーに必要な体力を鍛えるため、5歳で「空友会」に入門して空手を始め、高校では空手の強豪・福岡工業大学付属城東高校へ進学。より厳しい鍛錬で体力養成と減量に励みました。高3の冬、満を持して競艇選手の登竜門「ボートレーサー養成所」の試験に挑戦しますが、競争倍率20倍の壁は高く、無念の不合格。その後もレーサーになる志は揺るがず、アルパイトの合間に体幹トレーニングを積みながら挑戦を重ねます。そして、4回目のチャレンジで志願者796人から合格をつかみ、難関を見事突破。国内唯一の競艇選手育成機関「ボートレーサー養成所」(柳川市)の門をくぐりました。

一走に魂燃やす

約3分の凝縮された濃密な時空間で、レーサーたちが火花を散らす公営競技・ボートレース。コンマ1秒の世界で全国約千七百の選手が激闘を繰り広げる競艇界に誕生した新生森田梨湖選手。デビューに至るまでの壮絶な日々、そして、走り出した新たな夢に迫ります。



まさに「地獄の日々」
耐え抜きつかなかった夢

「ストレスで体重が5キロ減るくらい養成所は地獄でした」と過酷な日々を思い起こす梨湖選手。「ボートレーサー養成所」は、完全寮制で携帯電話の持ち込みは禁止。究極の閉鎖空間で競艇の基本をたたき込まれます。

朝6時の起床の号令から3分間で布団をたたみ、服を着替え、ダンベルを持って校庭にダッシュ。教官から叱咤される毎日で心身ともに体調を壊し学校を去る人もいれば、試験に失格して退校する仲間も出る弱肉強食の生活で、「常



↑入学時52人いた学生の内、卒業してプロデビューを成し遂げたのはたったの29人。

日本最高峰へ向けて 全力のフルスロットル

ボートレーサーとしての日々を「分からないことが、分からない」と例える梨湖選手。養成所で艇の操作やモーター調整、ペラたたきなどレースに必要な技術を学んだものの「本番のレースはまるで別物。養成所とは異なるしんどさがある」と語ります。若手レーサーには、レース以外にも先輩レーサーの補助などの仕事があり、「他の仕事をしながら、ばたばたと自分のレースに向かうことは日常茶飯事」と新人ならではの大変さも実感している梨湖選手。

本番のレースも、一番不利で命の危険も少ない6コースから徐々に実践を学んでいると言います。父親がかつ先輩レーサーの昭彦さんは「ターンはまだまだ。レースも初心者やけど、スタート勘は光るものがある」と梨湖選手の素質を評価したうえで、「レース初心者の新人選手は負けて当然。梨湖には、価値ある6着を重ねて、まずは初勝利を獲ってほしい」と期待を寄せます。梨湖選手も「スタートは見えている。自分を信じて決めていけるようになりたい。課題山積のターンは、練習を積んで克服していきたい」と自身を冷静に分析しています。

夢をかなえた今、「まずは父を超え、いづれは女性選手でも群を抜く強さを発揮する大山千広選手(飯塚市出身)のようなスタート勘と、男子選手にも負けないターン力を身に付けて「G1」や「SG」に出場したい」と新たな目標を掲げる梨湖選手。家族や友人、競艇ファンの熱い声援を後押しに、一走一走のレースを戦い抜き、全力前進、魂のフルスロットルで夢の舞台を目指します――

徳山競艇場(山口県)で1月25日から5日間開催される「中日スポーツ杯」に出場予定の梨湖選手。レースに向け、昭彦さんの指導で「ペラたたき」の特訓→